

会社法第782条第1項に定める事前開示書類（変更）
（吸収分割に関する事前開示書類）

2022年11月30日
株式会社セラク

2022年11月30日

会社法第782条第1項に定める事前開示書類（変更）

（吸収分割に関する事前開示書類）

東京都新宿区西新宿七丁目5番25号

株式会社セラク

代表取締役 宮崎 龍己

株式会社セラク（以下「当社」といいます）と当社の完全子会社である株式会社セラクCCC（以下「分割承継会社」といいます）は、両当事者間で締結した2022年8月26日付吸収分割契約書（以下「本契約」といいます）に基づき、当社が有するカスタマーサクセスソリューション事業に関する権利義務を、2022年12月1日を効力発生日として、分割承継会社に承継させる吸収分割（以下「本吸収分割」といいます）を行うことにいたしました。

本吸収分割を行うに際し、2022年9月8日から会社法第782条第1項および会社法施行規則第183条に基づく開示事項を備置きしておりますが、分割承継会社の最終事業年度（2021年9月1日から2022年8月31日まで）に係る計算書類等の内容が承認されたことに伴い、開示事項の内容に変更が生じたので、会社法施行規則第183条第7項に基づき、下記の通り変更後の事項を開示いたします。なお、下記における項目番号は2022年9月8日付「会社法第782条第1項に定める事前開示書類」の項目番号と対応しております。

記

5. 分割承継会社の計算書類等に関する事項

分割承継会社の最終事業年度に係る計算書類等の内容は別紙2のとおりです。

また、分割承継会社において、最終事業年度の末日後に生じた重要な財産の処分、重大な債務の負担その他の会社財産の状況に重要な影響を与える事象は生じておりません。

以 上

(別紙2)

事業報告

第4期

〔2021年9月1日から
2022年8月31日まで〕

株式会社セラクCCC

事業報告

(2021年9月1日から
2022年8月31日まで)

1. 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和され、緩やかな回復基調にありましたが、ロシアによるウクライナ侵攻など国際情勢の緊迫化に加え、急激な円安進行、原材料価格やエネルギー価格の高騰などが重なり、先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた活動を行ってまいりましたが、2022年8月26日開催の当社臨時株主総会において決議いただきましたとおり、親会社である株式会社セラクから同社のSalesforce定着化支援を行っているカスタマーサクセスソリューション事業を2022年12月1日をもって承継することになりました。

また、2022年8月26日より商号を株式会社セラクCCC（旧商号：株式会社セラクECA）に変更しております。

以上の結果、当社の売上高はありませんでした（前事業年度は2,835千円）。営業損失は3,855千円（前事業年度は営業損失1,872千円）、経常損失は3,851千円（前事業年度は経常利益225千円）、当期純損失は4,031千円（前事業年度は当期純利益45千円）となりました。

なお、当社の事業は、単一のセグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 設備投資の状況

該当事項はありません。

(3) 資金調達の状況

該当事項はありません。

(4) 対処すべき課題

コロナ禍により営業活動に制限を受けている状況ですが、株式会社セラクグループとしての強みを最大限に発揮し、承継するカスタマーサクセスソリューション事業を核として長期に安定的な収益の確保を目指します。

(5) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第1期 2019年8月期	第2期 2020年8月期	第3期 2021年8月期	第4期 (当期) 2022年8月期
売上高	13,252 千円	27,920 千円	2,835 千円	— 千円
経常利益	△25,927 千円	△13,870 千円	225 千円	△3,851 千円
当期純利益	△26,092 千円	△14,050 千円	45 千円	△4,031 千円
1株当たり当期純利益	△13,046.09 円	△7,025.17 円	22.69 円	△2,015.64 円
総資産	76,842 千円	63,891 千円	60,313 千円	56,080 千円
純資産	73,907 千円	59,857 千円	59,902 千円	55,871 千円
1株当たり純資産	36,953.91 円	29,928.74 円	29,951.43 円	27,935.80 円

(注) 1. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数（自己株式数を除く）に基づき算出しております。

2. 1株当たり純資産額は、期末発行済株式総数（自己株式数を除く）に基づき算出しております。

(6) 重要な親会社及び子会社の状況

① 親会社の状況

当社の親会社は株式会社セラクであり、同社は当社の株式を2,000株（出資比率100%）保有しております。

② 子会社の状況

該当事項はありません。

(7) 主要な事業内容（2022年8月31日現在）

事業	主要サービス
人材紹介事業	有料職業紹介・人材派遣・IT技術教育

(8) 主要な事業所（2022年8月31日現在）

名称	所在地
本社	東京都新宿区西新宿七丁目5番25号

(9) 従業員の状況 (2022年8月31日現在)

従業員数	前期末比増減
0 名	0 名

(注) 1. 従業員数は、就業従業員数であります。

(10) 主要な借入先 (2022年8月31日現在)

該当事項はありません。

2. 会社の株式に関する事項 (2022年8月31日現在)

(1) 発行可能株式総数 8,000株

(2) 発行済株式の総数 2,000株

(3) 株主数 1名

(4) 株主数

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
株式会社セラク	2,000株	100.00%

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の状況（2022年8月31日現在）

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役	宮崎龍己	株式会社セラク 代表取締役 株式会社宮崎 代表取締役
取締役	宮崎浩美	株式会社セラク 専務取締役 株式会社ピースエンジニアリング 取締役
取締役	米谷信吾	株式会社セラク 執行役員 りそなデジタルハブ株式会社 取締役
監査役	吉本寿樹	株式会社セラク 常勤監査役 株式会社ピースエンジニアリング 監査役

4. 決算後に生じた会社の状況に関する重要な事実

特記すべき重要な事実はありません。

貸借対照表

(2022年8月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	56,080	流動負債	208
現金及び預金	55,702	未払金	28
未収消費税等	378	未払法人税等	180
その他	0	負債合計	208
		(純資産の部)	
		株主資本	55,871
		資本金	100,000
		利益剰余金	△ 44,128
		その他利益剰余金	△ 44,128
		繰越利益剰余金	△ 44,128
		純資産合計	55,871
資産合計	56,080	負債・純資産合計	56,080

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(2021年9月1日から
2022年8月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		0
売 上 総 利 益		0
販売費及び一般管理費		3,855
営 業 利 益		△ 3,855
営 業 外 収 益		
受取利息及び配当金	0	
雑 収 入	3	3
経 常 利 益		△ 3,851
税引前当期純利益		△ 3,851
法人税、住民税及び事業税		180
当 期 純 利 益		△ 4,031

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(2021年9月1日から
2022年8月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				純 資 産 合 計
	資 本 金	利 益 剰 余 金		株主資本 合 計	
		その他利益 剰余金	利益剰余金 合 計		
		繰越利益 剰余金			
当 期 首 残 高	100,000	△ 40,097	△ 40,097	59,902	59,902
事業年度中の変動額					
当期純利益		△ 4,031	△ 4,031	△ 4,031	△ 4,031
事業年度中の変動額計		△ 4,031	△ 4,031	△ 4,031	△ 4,031
当 期 末 残 高	100,000	△ 44,128	△ 44,128	55,871	55,871

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

個 別 注 記 表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

①消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	2,000	—	—	2,000

監査役の監査報告書（謄本）

監 査 報 告 書

監査役として私は、2021年9月1日から2022年8月31日までの第4期事業年度の取締役の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査役として私は、取締役及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。さらに、会計帳簿及びこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、会社の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2022年10月27日

株式会社セラクCCC

監 査 役 吉 本 寿 樹 ㊞

以 上